

公益社団法人日本放射線技術学会 第 69 回総会学術大会にて実践される 国際化の一步

第 69 回総会学術大会
実行委員長 上田 克彦



1) 本大会における国際化

第 69 回総会学術大会における大きなテーマは JRC2013 のメインテーマ「Creation, Innovation, and Globalization」のひとつにもなっている Globalization といえます。杜下大会長のもと実行委員会として学術大会の国際化を意識して、新たな企画を実践してみました。

学会の国際化は大きく分けてふたつの事業があると言えます。ひとつは学会内部の国際化であり、もうひとつは海外との交流です。近年のわれわれが望んでいた診療放射線技師養成教育機関における教育の高度化が進み、優秀な若い会員が活躍して来ています。大学院のみならず、学部学生においても国際的な学術大会において英語による研究発表を経験している方も多くなっており、講義においても専門的な内容を日本人教員が英語で講義を行い、学生は英語で質問をすることも試みられています。本学会の諸先輩方が築かれた教育制度改革が着実に実を結び、大きな成果を生み出していると言えます。

学会内部の国際化の観点に立ちますと、本学会には、こういった能力のある若い会員が活躍できる環境を提供する義務があると言えます。平成 23 年 10 月には、本学会主催の国際会議 The 1st International Conference on Radiological Science and Technology (第 1 回国際放射線技術科学会議) を小寺吉衛大会長のもと開催し、5 カ国から 237 名の参加をいただきました。第 67 回総会学術大会では江島光弘大会長のもと国際フォーラムが企画され(Web 開催)、第 68 回総会学術大会では土井司大会長のもと、国際セッションにて英語による口述研究発表が実施され、着実に学術大会における国際化は進んでおります。

第 69 回総会学術大会においては、英語口述発表の区分を設け、国内から 24 演題の英語口述発表応募をいただき、日本語である一般研究発表応募演題の中から審査点数上位 10% の方に対して、推薦を行い、44 演題が英語口述発表を実施することになりました。その他、海外から 17 演題応募いただき、全体で 85 演題の英語口述発表が行われます。

日本語での演題応募時には推薦を受けた場合に、選択項目で「光栄に思い推薦を受けたい」と回答された方、「推薦を受けてから考えたい」と回答された方を合わせると 62% となり、実に応募者の半数以上が英語での発表機会について前向きに考えていただいたことがわかります。最終的に推薦を受けた方の 80% 以上の方が英語口述発表に移行していただき、短期間であったにもかかわらず日本語抄録から再度英語抄録も作成いただきました。

一方、総会学術大会では、毎年、正式交流のある各国からの来賓の参加をいただいております。今年は上記のように学術発表にて、アジア諸国からの多くの若い研究者の方々に参加いただいております。本大会にて学術交流の輪が広がることを期待しております。講演のために来日いただく先生方は、カナダから The University of Toronto の Martin Yaffe 先生とベルギーから Belgian Nuclear Research Centre の Filip Vanhavere 先生です。Yaffe 先生にはデジタルマンモグラフィに関する話題を Vanhavere 先生には水晶体被ばく線量測定に関する話題にてご講演いただきます。その他、新しく交流関係を構築予定の ECR にて放射線技術企画に関係している European Federation of Radiographers Societies 会長の Graciano Paulo 先生をお招きしております。

2) その他の新しい企画

本学会では、診療業務や教育業務のため学術大会に参加することができない会員の方が多い状況です。そこで、横浜の会場に来場することなく最新の学術発表を Web にて閲覧することができる「Web 参加」の登録区分を設けました。本大会のすべての研究発表は電子ポスター(CyPos)に登録されていますので、すべての研究発表を閲覧することができます。

また、遠隔地からの閲覧も可能となることは、ひいては、海外の方々が Web 参加を利用する可能性を秘めています。本大会では電子ポスターも含めて、英語表記を推奨しておりますが、英語スライドを全世界から閲覧できるシステムが構築されたことは、本学会の位置づけがより国際的になる大きな足掛かりになると言えます。

JRC2013 では、会場案内等が原則英語表記になり、総合プログラムにおきましても英語表記が多くなっております。このように関係する、すべての学会や団体が国際化に向かって動いており、日本から世界に優れた研究成果、技術開発成果を発信できる体制が整ってきています。本学術大会におきましても元気な日本を取り戻す一助になれることを祈念して準備、運営を行ってまいりましたので、皆様もその風を感じていただけますと幸いです。

本大会の準備、運営に御協力いただきました日本ラジオロジー協会の皆様、公益社団法人日本放射線技術学会事務局の皆様をはじめ各委員会の皆様、関係各位に心から感謝いたします。